

二つの米騒動

練馬区立開進第三中学校 3 年 小原 みなみ

お盆に祖母が、祖母にとって義母であるまつゑさんの話をしてくれた。私の曾祖母のまつゑさんは、明治の終わりに富山県魚津市の漁師の家に生まれた。九人兄弟だったが、そのうち無事に大人になったのは二人だけだった。死因ははっきり分らないが、病気など様々な原因で亡くなったという。私は、九人も兄弟がいるということにも驚いたが、そのうちの七人が子供時代に死んでしまうということにショックを受けた。

まつゑさんの子供時代の出来事として、一九一八年の富山の米騒動がある。まつゑさんが八歳の時のことだ。この暴動はまつゑさんの住んでいた魚津市で始まり、全国にも広がっていった。庶民は米不足や食料の高騰で食べ物に困ったのだろう。飢えで子供が死んでしまう事態にあったのかもしれない。母親達は死んでしまいそうな我が子のため、暴動を起こしたのかもしれない。

今の時代、子供が死ぬことはあってはならない。そのために、赤ちゃんの頃に何種類ものワクチン接種が受けられ、体調が悪くなったら病院にすぐかけられるように、救急車がすぐ来てくれるように、心の相談ができるように様々な機関が設けられている。今の時代では、これらはすべて税金のおかげで無料でサービスを受けられる。それに比べて、明治大正時代は、まつゑさんの兄弟のように、体の弱った子供は為す術もなく簡単に死んでしまったのだ。そう考えると、今のあたりまえは私の曾祖父母の時代には無かったことだ。

偶然に、今年の日本にも米騒動があった。しかし昔のような暴動にならなかったのはなぜなのだろう。それは、国が税金によって国民の悩みを解消するように働いたからだ。備蓄米が放出され、私達の生活を救ってくれた。それ以外にも国は税金を通じて支えの手を差し伸べている。たとえば、被災時などの様々な給付金、子育て世帯への補助、収入の少ない世帯への支援金などは、すべて税によってまかなわれている。また、医療費の助成、無償で教育が受けられる制度も、税金から成り立っている。

大正時代の米騒動では、民衆が立ち上がらなければ何も変わらなかった。一方、令和の私達は、既に整えられた社会保障や公的制度の仕組みの中で、苦しい状況でも生活が守られている。これはまさに、税の恩恵だ。私達の社会が制度や税によって支えられているから、暴動を起こさずにすんだのだ。

大正と令和の二つの米騒動を知ることは、「税」がどれほど私たちの生活を支えているかを実感するきっかけにもなった。

私は、今の時代の日本に生まれ育ってきて、本当に良かったと心から思う。しかし、このような豊かで安心安全の生活があるのは、まつゑさん達の生きた苦難の時代があったからこそだと思う。そして、国民の苦しみを解決する税金があるからこそなのだ。